

第二百九十四話 活兵器、軍馬に哀悼の誠を捧ぐ！

第二次世界大戦（大東亜戦争）間に大々的（？）に「軍馬」を活用したのは帝国陸軍位なものだろう。靖国神社では例年「戦没馬慰霊祭」も挙行される位に日本陸軍と馬は密接な関係がある。自動車化を進めるだけの国力がなかったからだとか、時代遅れだと一刀両断に切って捨てて良いのだろうか？ 予想戦場に適応しようとした？

1 軍馬の歴史概観

第二次大戦で、自動車化、機械化を達成できたのは米国のみで、それ以外の主要国家においては、軍需物資や重砲の輸送、偵察用途などで、軍馬は欠かせないものであった。日本は、日清戦争で約 5.6 万頭、日露戦争で約 17.2 万頭が動員され、関特演（1941）では約 13 万頭が、青紙招集された。

日本馬は、体格上軍馬として劣っており、日本は馬政局を創設（当初は政府直轄事後陸軍省）し、馬政計画を策定して改良に取り組んだ。西洋種馬の導入（繁殖管理）、馬政三法の制定（馬匹去勢法、馬籍法、軍馬資源保護法）により、軍馬も大いに改良され、軍用としての管理も容易になった。

2 軍馬を積極的に運用しようとした背景

日本の国力上、自動車化は厳しいこと、支那大陸や対ソ戦を考慮した場合、馬は寒さに強いこと、予想戦場は悪路・未舗装であり、機械化部隊の行動に適さないこと、また燃料も十分に確保できない恐れもあること等によるものと推察されている。

3 軍馬の種類

軍馬には、将校や騎兵が使う「乗馬」、大砲や弾薬を引っ張る「輓（ばん）馬」、食料や荷物を背中に付けて輸送する「駄馬」がある。

4 活兵器としての軍馬

騎兵用乗馬としての利用は激減し、戦争末期には騎兵第四旅団を残すのみとなっていた。1941 年当時における甲師団（常設師団）編制での馬匹定員は、ある資料では、以下の通りである。歩兵部隊：人員 5546 人に対し馬は 1242 頭、砲兵連隊：人員 2894 人に対し馬は 2269 頭、輜重兵連隊：人員 1813 人に対し馬は 950 頭 とされる。如何に軍馬の割合が高かったかが察せられよう。

5 軍馬補充部

陸軍において馬匹の調達は重要であり、そのため、補充を担当する組織として軍馬補充部が設置された。軍馬補充部は民間から馬匹を購入・徴用した上で、訓練を施し戦場に送り出した。道東は一大馬産地であった。朔東第 54 号に一遍の記事をアップしている。<http://yamateru.stars.ne.jp/sakutou054.pdf>

6 乗馬騎兵最後の戦闘

世界最後の本格的な騎兵戦闘・騎馬突撃は、1945 年（昭和 20 年）に行われた老河口作戦での騎兵第 4 旅団の戦闘であると云われる。



7 戦没馬慰霊像（靖国神社境内）（説明文の一部紹介）

明治初期から昭和 20 年 8 月 15 日の終戦に至るまで、幾多の戦役にかり出されおよそ 100 万頭の馬が戦陣に斃れた。軍馬や徴発馬が、斥候、行軍、戦闘のため戦場を駆巡る乗馬として、或いは如何なる難路にも屈せず重い火砲を引く輓馬、軍需品を背負い搬送する駄馬として戦地に赴いた。御国のため戦場を駆巡り、屍を野辺に晒したもの数知れず、・・・」例外的に日本に奇跡の生還をした軍馬がいる。「軍馬・勝山号」

9 人獣共通の感染症である「鼻疽」研究等のため「一〇〇（イチマルマル）部隊」（関東軍軍馬防疫廠、彼の七三一部隊と密接な関係がある？）を満州に設置した。

（了）